

¡Hola, amigos!

第083号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年10月21日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは082号(10月14日)、081号(10月07日)

080号(09月30日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



「潮騒が聞こえる」の巻

伊勢湾の入り口、伊良湖水道は渥美半島先端の伊良湖岬と神島との狭い水路で、大型船運航者にとってはありがたくないところです。水道の西側にある神島は三島由紀夫の「潮騒」に出てくる歌島という島のモデルだと聞いていました。真偽は知りませんがいかにもソレらしいところで、卒業した学校から近いこともあり、そこを通る度に危険な航路にハラハラするのは裏腹にある種の懐かしさを感じていました。

実際の潮騒は40年の海上生活では常に耳を離れませんでした。カァディスに住むようになった今、海上にいたとき以上に毎日はっきりと聞こえています。

ところで、現役を退いた頃からでしょうか、時々耳鳴りがしています。父親も耳鳴りには悩まされていたらしいので、多分遺伝的体質なのでしょう。それほど鬱陶しいものではありませんが、厄介なことに静かな環境にいる時ほど耳鳴りははっきりしてしまいます。カァディスの部屋のありがたいことの一つは、この耳鳴りがあまり苦にならないことです。潮騒が耳鳴りを消してくれるのです。

潮騒のモウ一つの効果は、耳鳴り以外の雑音もやわらげてくれること。

私達の右隣の部屋の住人は、あのネコの飼い主のオバさんですが、一人暮らしのこの人は一日中テレビつけっぱなしで、一体いつ寝てるんだろうと思うくらい24時間深夜でも明け方でもお構いなしの大音量です。どうやら寝ている間も部屋にいる限りテレビはつけっぱなしなんです。初めはクッソーと思いましたが、よく考えてみるとこっちも少々の雑音を出しても気にする必要がなく、気楽と言えば気楽です。

それに暖かい間は窓開けっ放しですから隣のテレビの音は潮騒に消されます。



先週はカアディスでも何回か雨が降り、内陸部や東部バルセロナ周辺ではとんだ水害に見舞われたようでした。丁度いいオシメリなんてのはなかなかないですね。

特に普段あまり雨が降らないアンダルシアは、どうも大雨には弱いらしく、チョット降ってもすぐに水害騒ぎになります。信じられないことに、雨の後、突然道路が陥没してしまったり、家の壁が崩れてしまったりと言うニュースが流れます。乾燥しきつ

たところへ突然の雨で、何もかも溶けて流れてしまうらしい。

この秋、最初にカアディスに雨を降らせたのは熱低クズレの低気圧でしたが、ソレが通過した後、天気は変わりやすい秋の空に変わりました。同時にそろそろ北大西洋では時化のシーズンに突入で、カアディスの浜にも遠くからのうねりが押し寄せるよう

になりました。ビスケイ湾ではもう地獄が始まっているんでしょう。

夏、海水浴客が大勢来ている頃は波は穏やかですから昼間は人のざわめきに消されて潮騒も殆ど聞こえませんが、それでも夜になればなんとなくザーザーと切れ目ない音が聞こえてきます。秋になってウネリが出始めると少し様子が変わります。

上の写真ぐらいのウネリでは擬音語で言えばザザーンッ、ぐらいでしょうか。



風はなく海面には縮緬皺のような波しか見えませんが、遠く北大西洋から来るうねりはこんな具合。サーファーは大喜びです。この上下二枚の程度になるともうザーではなく、ドドンッ、と重い音を立てます。



上の二枚はチョットおおげさに見えるようにというイタズラで、波打ち際に腰をかかめて撮ったもので、波が大きい時でも実際の波高は精々2 mから3 m弱くらい、ここでは時化でもそれ以上の波高になったのを見たことはありません。

前にも言いましたが、この浜の沖合い2～3キロ位のところに浅瀬があってソレが水中防波堤のようになっています。周囲の海底の水深が平均10m後半位のところに水深4～5m台の浅瀬があるんです。言い換えると海底から10m前後盛り上がった土手があるというわけ。だからソレより沖ではかなりの波高であってもこの水面下の防波堤で消波されてしまい浜に来るまでには小さくなってしまいます。



距離感はつかみにくいでしょうが、水平線が盛り上がっているのが見えますね。これが水面下防波堤のすぐ向こうのウネリです。そのこちら側は波静かでボート釣師もノンビリしてますね。そしていよいよ浜に近づくと浜のすぐ沖200メートルぐらいの所に再び岩場が点々とありそこでもう一度崩れます。だから直接大西洋に面していても、この浜は比較的波静かなんです。そしてそこには魚が一杯の筈。そこまで行ければ魚屋に用はないんですが。こんなボートほしいナー。頼みはオーンセ。***

(お断り：来週10月28日号は休刊させて頂きます。悪しからず。)

「プルポ・ガイェーゴ」の巻

プルポは pulpo=蛸。ガイェーゴは gallego=ガリシアの。私達にとって難物のダブル・エル(11)の発音、リエともイエともジエとも聞こえます。

まあ、このカナ表記ガイェーゴをそのまま読めばマズ通じると思います。ダメだったらガジェーゴと言いなおしてみるか、それでもダメな相手にはもう書いて見せるしかありません。だから私達は常にメモ・ノートはポケットに入れてあります。

話すより書いたほうが自分自身は覚えやすいしマチガイも少ない。でもスペインの人はオハナシのほうが断然好きみたいで、何かを書いて表示すると言うことは断固としてシマイと決めているフシが感じられます。

私達が体験した少ない例外の一つ。先日長距離バス・センターの案内所に行ったときの話。実はすぐ近くのメインストリートを午後遅く通るバスに行き先が IRUN となっているのを良く見かけます。IRUN? イルンてどこだろう聞いたことがない地名。

早速地図で調べると、なんとビスケイ湾の南東の角、フランスとの国境の町でした。本当にそこに行く先なら、このバスは殆どスペインを縦断するわけです。鹿児島発札幌行みたいなもんです。ホントニそんなバスあるのだろうか、時間だってもものすごく掛かるだろうに。何しろスペインを含む欧州各国間は長距離国際バスなんてのはザラですから、マドリード発なら何の不思議もありません。カアディス発というところが疑問。そういえばガリシアへ行ったバス・ツアーも出発点はカアディスだったナー。そこで早速バス・センターの案内所。私達はモウ何度もここへ足を運んだので、係りのセニョリータも又来たたとニヤリ。親切に教えてくれましたが、なんと、答の要点をちゃんとメモ用紙に書いてくれました。毎日19時カアディス発、イルン着は翌日11時15分、料金52.02ユーロ。こんなことスペインじゃ珍しいんですよ。

私達が行くたびに「これに書いて」とメモを渡して頼むので、すっかりこっちのペースにはまっちゃったんですね。どうせ話しても一度じゃワカランだろうと思ったか?

話がそれました。プルポ・ガイェーゴは北西部ガリシア名物・蛸料理。



スマイカ（チョコ）はもう二回も捕ってますね。今度は蛸入道。皆さんは渚をジャブジャブ歩いていてこんなのを見つけたらどうします？ キャー、なんてのはナシですよ。私達はといえばもう決まっています、物も言わずにムズです。

前の項の波の写真を撮るためにこの日はたまたまカメラを持ってましたから、とりあえず浅いほうへ蹴っ飛ばしておいてマズ写真を一枚。あとはもう吸い付かれるのも厭わず掴み取ってウチへまっしぐら。

周りには犬と散歩のオバさん二人、目敏く私達の行動を見つけて、あなた達プルポ捕まえたの？見せて見せて、と寄ってきました。そして、へー、チッチャイワネ。

放してあげないの？ なんて言われないうちに早々に退散。サイナラー。

ウチへ帰って計測の結果、一番長い足の先の先までの全長45センチ重量350g。リッパなモンです、チッチャイなんて言わせんゾ。ウチで冷凍蛸を買ってプルポ・ガイエーゴを作るときは1キロの蛸で夕食2回ですから、ランチ・ビール用に350g
だったら何の文句があるかというところ。

早速、塩ブツ掛けて揉みに揉んで茹で上げました。新鮮茹蛸一丁あがり！！

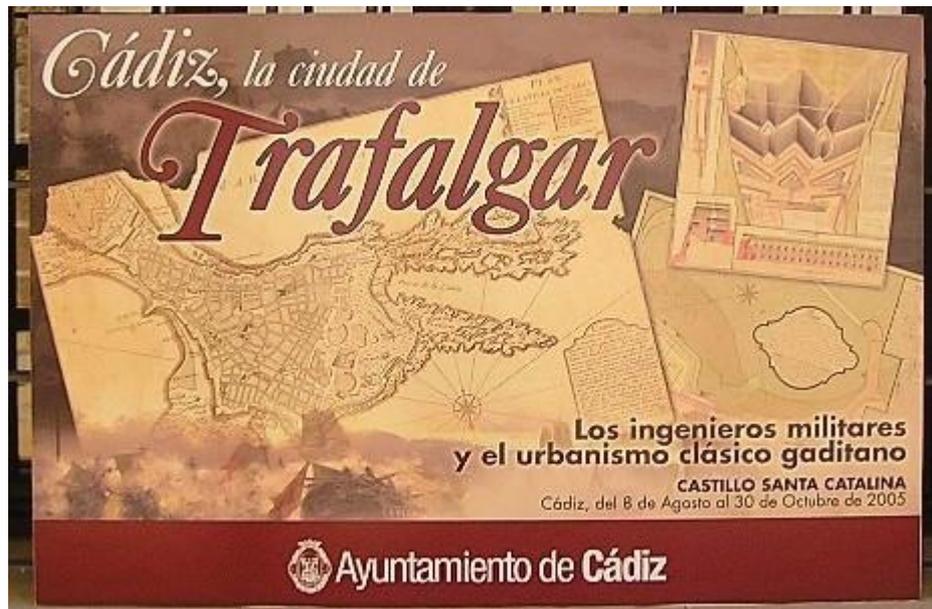


足はチョット細いけど、いかにもプリプリ、シコシコしてそうでしょう？
ほんとはプルポ・ガイェーゴはぐつぐつと30分以上茹で上げて柔らかくするんです
が今日は小型だし新鮮でもあるので日本式にサット茹で。
プルポ・ガイェーゴをはじめて食べたのはガリシア地方へバス・ツアーで行ったとき
ですがそれ以来、時々ガリシアの冷凍蛸が安売りで出たときにやっています。
テネリフェ島へ行ったときですら、シーフード・レストランのメニューにはこの料理
が載ってましたから、多分スペイン全土で食べられているスペイン人お気に入りの料
理なんだと思います。だから蛸は結構いい値段です。ナマの地蛸はキロ10ユーロ以
上、冷凍でもウチが買うガリシア産はキロ8ユーロ以上です。アフリカ産の大きい
のはさすがに安いですが、これは問題外。
作り方は簡単、少なくとも30分以上ヨーク茹でて、茹で上がったら鍋からあげて
箸にとり自然にさめるのを待ちます。さめた蛸を適当にスライスして皿に盛りオリーブ
油をかけまわした上パプリカをたっぷり振り掛けます。それだけ。料理ともいえない
簡単さ、それで旨いんだからスペインの人が気に入るのも無理ないか。



今日のメニュー：プルボ・ガイェーゴ、アセイトゥナス、エンサラダ、ごりメロンの
ブラ・蜂蜜かけ、それにランチ・ビールではなく、大漁を祝って昼からビーノ。
海鮮だからと言って白でなくてもヨロシー、オリーブ油がたっぷり掛かってますから
赤にも合います。超簡単料理ではありますがそれなりの工夫はあります。
まず、茹でるときは少量の酒と醤油を加えて柔らかく、且つ色よく。蛸の下は茹でジ
ャガ、何故かプルボ・ガイェーゴには茹でジャガ・スライスが敷いてあるんです。
日本では豆・蛸とか芋・蛸とかは相性のいい煮物となっているようですがソレとは関
係なさそう。単にボリュームたっぷりに見せるためだけかも知れませんがオリーブ油
とパプリカの掛かった茹でジャガも悪くはありません。清酒にはダメですねキット。
そしてかけまわすオリーブ油もその時の気分で色々な味のものを。今日はバジル風味
にしてみました。作り方はもういいですね。バジルを湯煎すれば簡単にできます。
そして、決め手はパプリカ。少し辛味が欲しいのでウチではピメントン・ピカンテと
いう言わば辛口パプリカを使いますが、なければ七味も悪くないでしょう。では、改
めて大漁にカンパイ。これから浜を歩くのに目つきが悪くなりそうで・・・***

「カボ・デ・トラファルガル」の巻



暑い盛りから町のあちこちで写真のようなポスターを見かけました。アア今年はトラファルガーの二百周年、何かその記念の展覧会なんだ、と思っていました。場所はサンタ・カタリィナ、前に紹介した古城のひとつ、中はミニ博物館になっていて時々彫刻や絵画の個展なども開かれるし、野外コンサートなども開かれます。入場無料なのがうれしい。

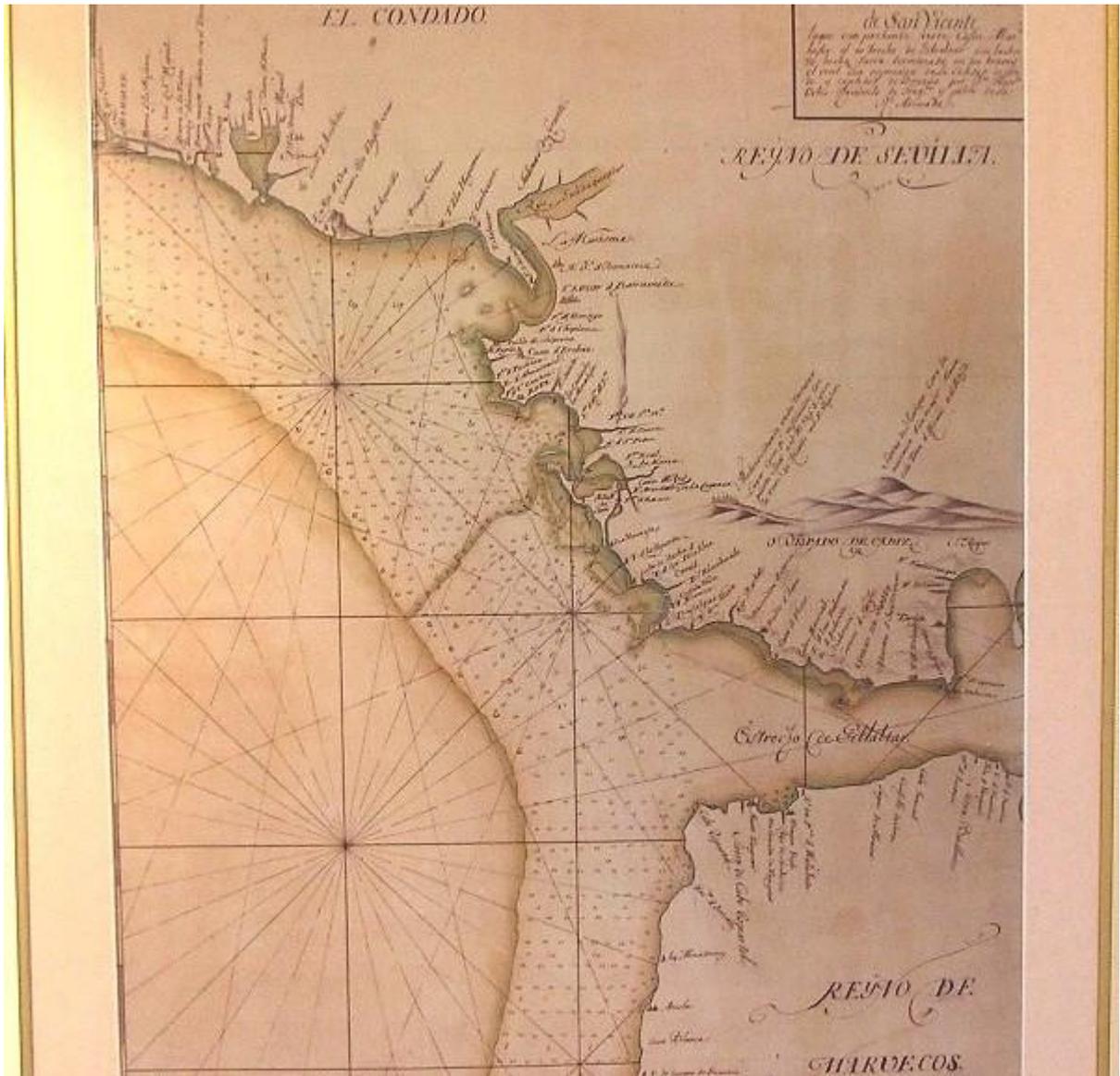
ウチからは海岸遊歩道沿いに5キロ弱、散歩には丁度いい距離ですが道中日陰は全くないので暑い時期はとてもダメ。期間は10月終り迄だし、涼しくなったら行ってみよう。デ、結局、先週ここへ行った日は10月半ばにもなるのにナーンにも涼しくない日でした。でも、一頃の焼けるような暑さではなく、軟らかな海風が気持ちいい。カボ・デ・トラファルガル Cabo de Trafalgar=トラファルガー岬とは、皆さんご存知のトラファルガーの海戦、英国のネルソン提督がスペイン・フランス連合艦隊を相手に大勝したけれど自らは銃弾を受けて戦死したという海戦、その勝利によってナポレオンの英国侵攻の野望を粉碎したという有名な海戦の舞台です。英語ではファの部分にアクセントがありますが、同じスペルでスペイン語ではガァにアクセントが来ます。英語と同じスペルの単語は一杯ありますが発音とアクセントは違います。



印字がにじんで読みにくいですが、カボ・デ・トラファルガルは図の中央、カアデイスから南東方約40キロです。右下がジブラルタル海峡ですがその南側の陸地はモロッコ、勿論アフリカ大陸です。図の右端のアフリカ側の町がセウタ Ceuta、スペインがモロッコ国内に持つ飛び地。その向かい側がジブラルタルでイギリスがスペイン国内に持つ飛び地。両方とも何かと紛争のタネになるところです。

ジブラルタル半島の先端はヨーロッパ・ポイント Punta de Europa。海峡の真ん中辺のスペイン側、プンタ・デ・タリファ Punta de Tarifa はイベリア半島最南端です。

これらの地名はみな今までに登場しましたね。Rには陸上も海上も通いなれた道。トラファルガルのすぐ右、バルバアテ Barbate という地名読み取れますか？ ここはマグロの水揚げで有名な漁港で、私達が時々買いに行く市場のマグロ屋のアニさんフェルナンドが、そのうち買い付けに行くとき連れてってやると言ってくれてたんですが、私達が日本に帰ってしまったりでマダ実現してません。催促すれば、オットー忘れてたー、とすぐ連れてってくれるんでしょうが、いつも忙しそうにしてるので言い出しにくくて……。それに漁の最盛期は初夏らしいし、まあ来年まで待つか。



展示会場はトラファルガルの海戦とは直接関係なさそうな古地図展みたいなものでこの周辺の古い地図、その多くは海図的性格のものですが珍しいものが沢山ありました。一番目を引かれたのはこの一枚。前の現在の海図と較べると少し形が崩れてはいませんが描くべきところは全て描かれています。但し海岸を離れて少し沖に行くともうそこは何にもナイ！ イツ頃描かれたものか多分大航海時代15～16世紀でしょう。この崖が落ち込んでいるような「海の果て」は前の海図と見比べてみると、大体水深500メートルの等深線のあたりです。そこ迄はちゃんと水深も記入されています。ということは、そこより遠くへやたらに行かせたくなかったか？ ソレはキチガイ沙汰だと言うのか？ 単に深海測深をする技術がなかったのか？ 多くの航海者が未知の世界を目指して船出した頃はこういう海図しかなかった。イイ度胸ですねー。



次の一枚、時代はぐっと下がって1787年のもの。これはもう驚くほど現在の海図に近く、水深の記入の仕方も暗礁のある付近では密に、航行に危険のない深いところでは疎らになっていて合理的。これなどは現在の海図と全く同じ手法です。

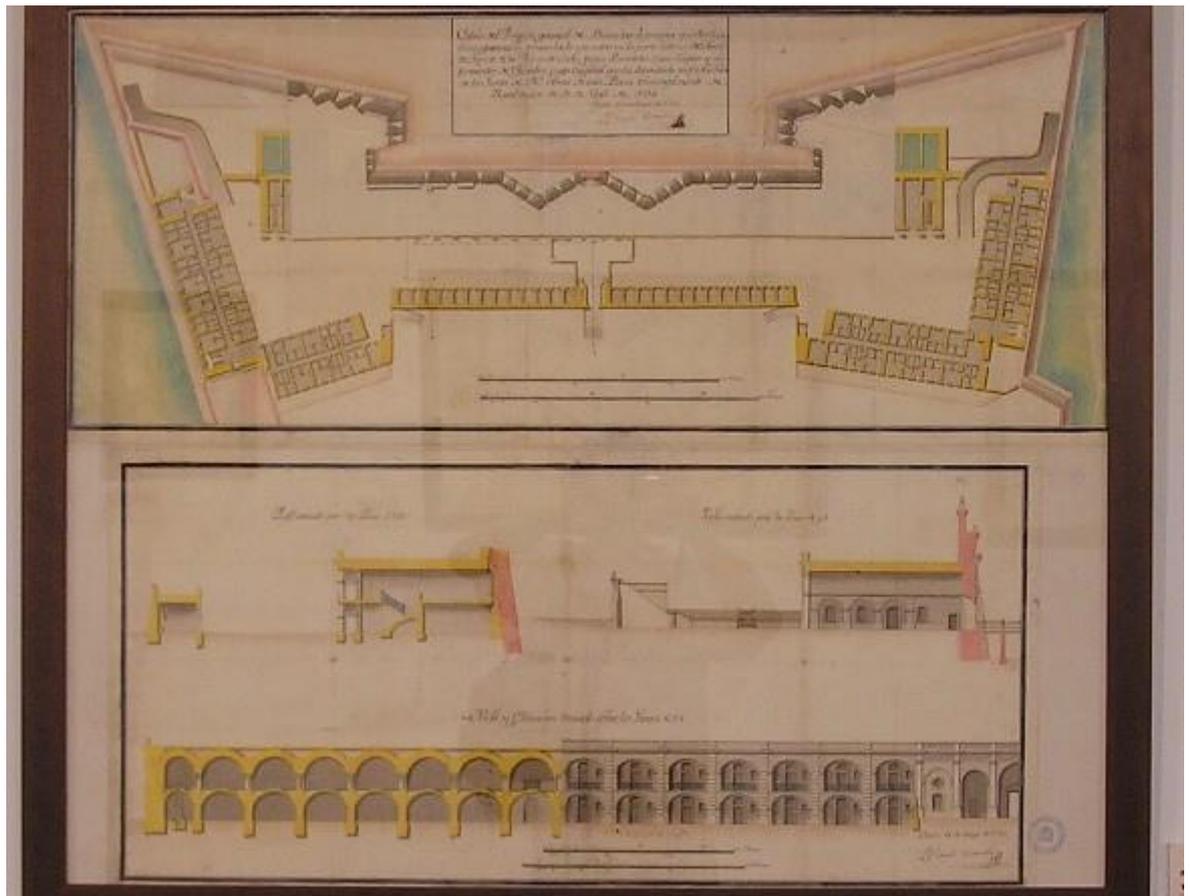
図の左右と上下の縁にはそれぞれ緯度・経度の目盛りもあってこれなども既に現代海図図式と全く同じ考え方です。

百科事典によれば、伊能忠敬が中心となって作成した伊能図と呼ばれる精密な地図が完成したのは1821年でその正確さは当時のヨーロッパでも高い評価を得たとしています。伊能図を見た記憶はありませんが、明治維新前の日本で海洋の水深にまで精密に記入されているとは考えにくい。海図に関しては到底西欧の技術には及ばなかったことは確かでしょう。同時代、日本の海洋関係技術は、鎖国政策のおかげで全く不毛、明治維新以降一気に開化したものですね。そして日本人特有の緻密さで海図作成技術も、航海技術も急速に欧米各国に追いついたわけです。

しかし、ひとたび日本沿岸を離れると現在でもなお海図上には（1800何年の）英国海軍測量による、ナンテ書いてある所が沢山あり、驚くほかはありません。



1700年代前半のカアディス旧市街の地図。右下が現在旧市街入り口のシンボルともなっているプエルタ・デ・ティエラ。下はその設計図。これらを見ると旧市街は殆ど人工島といってもいい位、軍事土木工事によって建設されているのが解ります。ここにはでてませんが、石垣の石一つ一つまでその形と大きさを指定した設計図もあって、その緻密さは日本人も脱帽。現代のスペインの様子からは考えにくい。





これは現在新市街と呼ばれる半島の中央部分です。私達の住居は白い星印のあたり。一つ前の写真の旧市街への入り口プエルタ・デ・ティエラは左端。そして右端の城郭が現在の新市街の外れ、カアデイス市の最南端です。

この地図を見ると、この半島は岩場の周りにできた砂嘴が次第に発達して形成されたものであることが理解できます。この図は1740年に描かれたものだそうです。

下は全く同じ位置の航空写真。埋め立て工事等で海岸線に多少の変化はありますが全体としてはかなり正確ですね。これらの図面に共通するのは必ず縮尺がついていること。当たり前と言えは当たり前ですが、最近の地図ではその当たり前が通用しないものが多い。当時の設計図や地図の精密さと今の雑さ加減の差には当惑するばかり。



ポスターを見た時は、この展示会はトラファルガー海戦の資料の展示だと思っていま

したが、どうもそうではないらしい。海戦に関する資料は一つもありませんでした。そりゃソウですね、スペインにとっては思い出したくもない屈辱の歴史ですからね。ここで一番初めのポスターを見ていただくと Cádiz, la ciudad de Trafalgar となっています。直訳すると「トラファルガルの町、カアディス」ですが、これがナニを意味するか、歴史に弱い私達にはどうも良く分かりません。

展示されていた古地図や城郭の設計図・構造図の殆どは1700年代のものが多く、海戦のあった時期より古い時代のものです。カアディスは要塞堅固の軍港でトラファルガル海戦の兵站地として重要な役割を担った、と言いたいのでしょうか。古くは要塞都市だったカアディス、殆どが人工的に作られた旧市街の軍事的土木工事は当時としては最先端を行く技術だったのかも知れません。

確かにその設計図や構造図は1700年台初期のものとしては驚くばかりに詳細且つ精密なもので、現在その辺で見ることができる近代建築のいい加減さ、工事のズサンなことと較べると、これがホントニ同じスペインの土木建築技術かと疑いたくなるほどです。私達はどうせこの国で家を買うことなど資金的に無理で、考えてもいませんが、たとえお金があってもこの国で家を買う気には到底なれません。それほど雑な工事が今住んでいる部屋にもあるし、前のベナルマデナの部屋にもありました。

カネに糸目をつけぬ軍事目的の工事と、安く作ってより多くの利潤を上げようという住宅建設を、同列に較べることには無理があるにしても、その差の余りの大きさに愕然とします。また私達がこの国に来てから買った地図は既に20数点に達していますが、その幾つかはデタラメと言っていいくらいズサンなもので、その昔海洋を制覇したことのある国の地図としては余りにお粗末でガッカリしていました。しかし、この展示会で見た古地図は古いなりにみな素晴らしい物でホッとするような気分でした。民族の栄枯盛衰はどこにも見られることで珍しくもありませんが、中・南米の旧植民地を失ったときスペイン本国は死んだと言うことでしょうか？

海戦とは直接関係のない「古地図展示会」のようなものでしたが地図大好き人間としては大いに楽しめた一日でした。ソレニシテモ、もうちょっとマシな都市地図を作っ
てほしいナー。ウチの地図にはあっちもこっちも訂正書き込みだらけデッセ。***
